

# 足助の町並み ・ 寿ぐ家再生プロジェクトの 挑戦

---

地域人文化学研究所

代表理事 天野博之

はじめに

自己紹介

足助の町並みと寿ゞ家

寿ゞ家再生プロジェクトの概要

これまでの活動

これからの活動

課題と挑戦

活動の継続と理念の実現



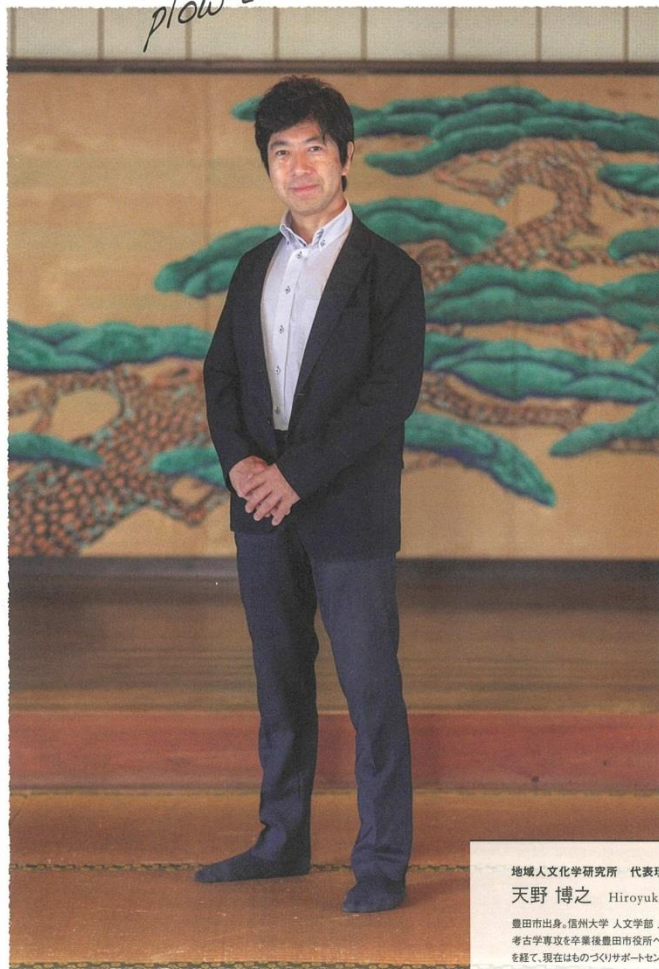
# はじめに

## 耕人 plow-do

vol.24

このまちで日々人生を  
耕している人にお話を伺いました

### 人・モノ・地域の間によって化学反応を起こす



地域人文化学研究所 代表理事  
天野 博之 Hiroyuki Amano

豊田市出身。信州大学 人文学部 人文学科 比較文化論コース  
考古学専攻を卒業後豊田市役所へ入庁。文化財課や支所勤務  
を経て、現在はものづくりサポートセンター所長。  
とよた五平辯学会学芸員も務める。



足助の町並みや寿+家の魅力を熱く語ってくれた

#### 自然体で「歩先へ」

天野さんを訪ねると、まず名刺を3枚くれた。地域人文化学研究所の代表理事、とよた五平辯学会学芸員そして、ものづくりサポートセンター所長だ。

本職は豊田市役所職員である。大学卒業後に入庁。文化財課に配属された際には、遺跡の発掘調査や豊田市近代の産業とくらし発見館の立ち上げなどを行った。現場へ出て現場で考え、文化財を遺産としてだけではなく資産として活用することを常に心掛けてきたという。

足助の町並み保存にも深く関わっている。地域の人と距離を近くし、腹を割って本気で地域に向き合っていく中、言葉よりも自分の行動で保存の先の活用を示すことが大事と考え、平成25年に任意団体「地域人文化学研究所」を設立した。掲げた目的は、人と人・モノ(資源)・地域の間

立って楽しくなるようなコトを起す触媒の役割とすることだ。

足助町本町にある地蔵堂横の小道、地蔵小路を北に入って、突き当り左側に、かつて足助の高級料亭として名を馳せていた「寿々家(すずき)」がある。長年空き家状態が続き、草木が伸び放題で中に入ることもできない家の中は獣たちの住処になっていた。「しかし、何か魅力のある建物だ。」そう思った天野さんはすぐさま行動に移した。足助を離れている家主さんから借りることができ、「寿々家再生プロジェクト」が始動した。「ゴミ出しや掃除は大変な作業だった。ここで初めて開催したイベントは「足助の町並みのデザイ」を考える」という地元を対象とした勉強会だった。多くの人が寿々家を利活用し、交流し、そこから新たな価値を生み出した。というのが天野さんの思いだ。「遺産から資産へ」仕事で考えてきたこと、天野さん個人の行動には「貫性」がある。

寿々家では足助コンナレというアートイベントが3年間行われた。多い年は千人を超える来場者数だったという。アーティストと地元の家と家と屋がコラボをしたり、地域のお年寄りの方も訪れた。「ここ、披露宴をやったんだよ。懐かしね。」ここは敷居が高くて入れないところだったから、入ることができて嬉しいという声を聴き、時空を繋いだと感じたという。同じ地域の人の過去、現在、未来、そして地域の人と外からきた人。寿々家は様々なものを結び、繋げた。現在、地元有志の「足助をど

りの会の練習場所としても活用されている。

報酬が増える訳ではないのに、なぜこの様に地域のためにどんどん自分自身の仕事を増やして忙しくしているのでしょうか?という問いに対して、なぜでしょう?あははと笑って返してくれた天野さん。地域に関する困り事等を見つけ、それを自分が解決できるかもしれないアイデアを思いつくと、自然に身体が動いてしまうのだらうと感じた。これまでに、天野さんに対して、この人になら任せられない、と判断して人々々の心情が分かる気がした。義理人情、厚く己の道を進み、その自然体で時代に先んじて未開の荒野を踏み分けていく。

天野さんは公務員としての仕事もしかりと全部するという意志がはつきりとしていた。「仕事は仕事できちんとこなしてこそ、他の生業が活かされてくると考えています。」何足ものワラジを履いているからこそなのか、仕事に取り組む姿勢はいつも真剣だ。

天野さんの様に、1つの仕事にとらわれず、臨機応変に世の中から必要とされる仕事を兼業していく生き方がこれからの時代の標準の生き方になてくるとは、ほんとうだろうか。

(文 西村みほ)

#### ● クラウドファンディング はじめます!

寿+家のトイレと水道を整備すべく  
クラウドファンディングを開始します。  
2018年8月開始予定です

#### ● 今年も募集します! 「とよた世間遺産」

「これオモシロい!」と思ったとよたの  
ヒト・モノ・コトの情報をお待ちしております!  
ぜひ!

詳細はホームページへ!

地域人文化学研究所

<https://www.catalyst-r.com/>

# 地域人文化学研究所

→団体名：**地域**＋**人**＋**人文**（生活）＋**文化** の  
**化学**反応を起こす**研究所**（場）

2013年6月8日設立

地域資源を活かした面白い活動を展開し、  
「とよた」らしい魅力が光る地域づくりを行う  
（**地域をオモシロクするコトを企む**）

詳しくはWebで→ <https://catalyst-r.com/>



# 地域人文化学研究所

「チカクのトビラ」

ホーム

お知らせ

寿々家再生プロジェクト

宇都宮三郎(秋水)を語る！

とよた世間遺産

まちづくり支援

会員募集

リンク

関連グッズ販売

お問い合わせ

書庫

支援者様芳名帳

## 地域をオモシロクするコトを企む(秘密?)結社。 それが、「地域人文化学研究所」

### まちづくりの「触媒」

地域、地域人、人文、文化、化学、そして実践の場としての研究所。これらの単語をつなげてできた名前が、「地域人文化学研究所」です。

人と人・モノ(資源)・地域の間で立って、楽しくなるような

活動の柱



ロゴマークその1



# 「寿之家再生プロジェクト」

足助の町並みで、  
旧料亭の建物を再生し、  
新たな価値を創り出す。

それが、

「寿之家再生プロジェクト」



ただし、  
いまだに遠い彼岸を目指して手漕ぎボートで向かう途中

# 足助の町並み と 寿々家



- ・重要伝統的建造物群保存地区  
(愛知県下初)
- ・多様な顔を持つ美しさ
- ・生活感がある愛おしさ
- ・個性的な人たちの巣窟

# 寿之家

改修前の様子





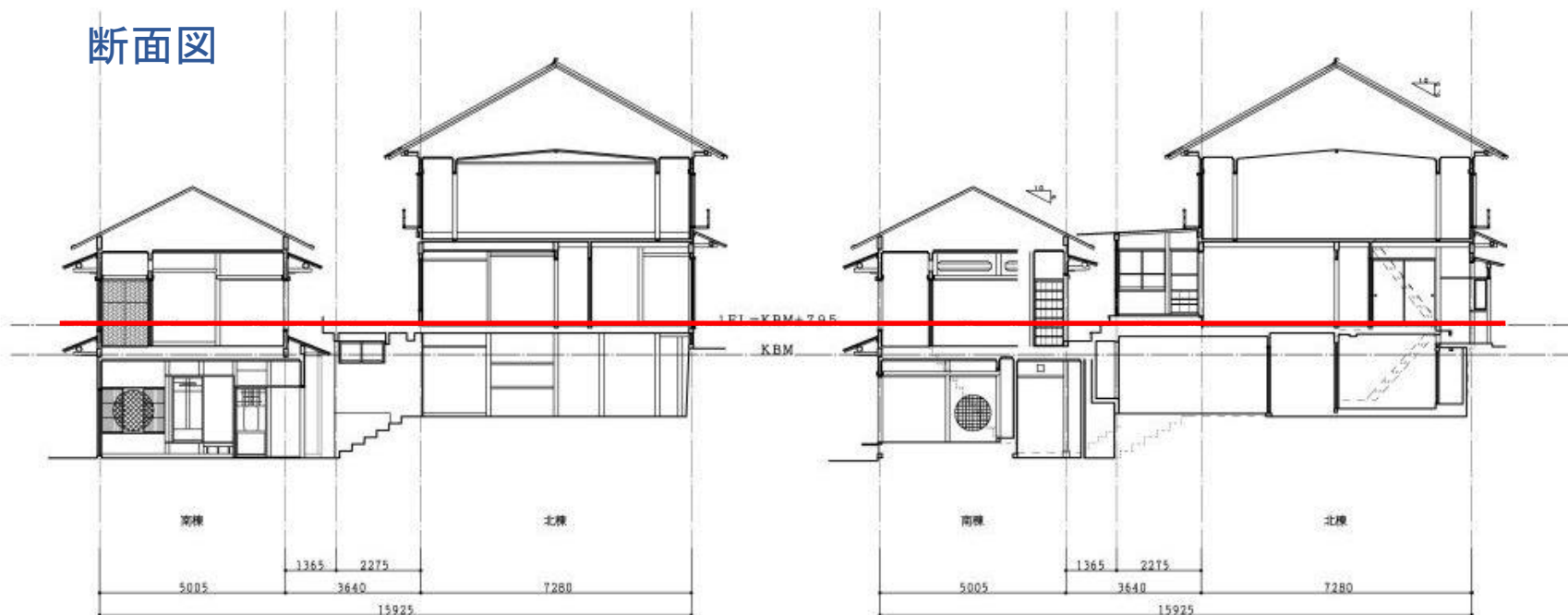


# 改修前 立面図

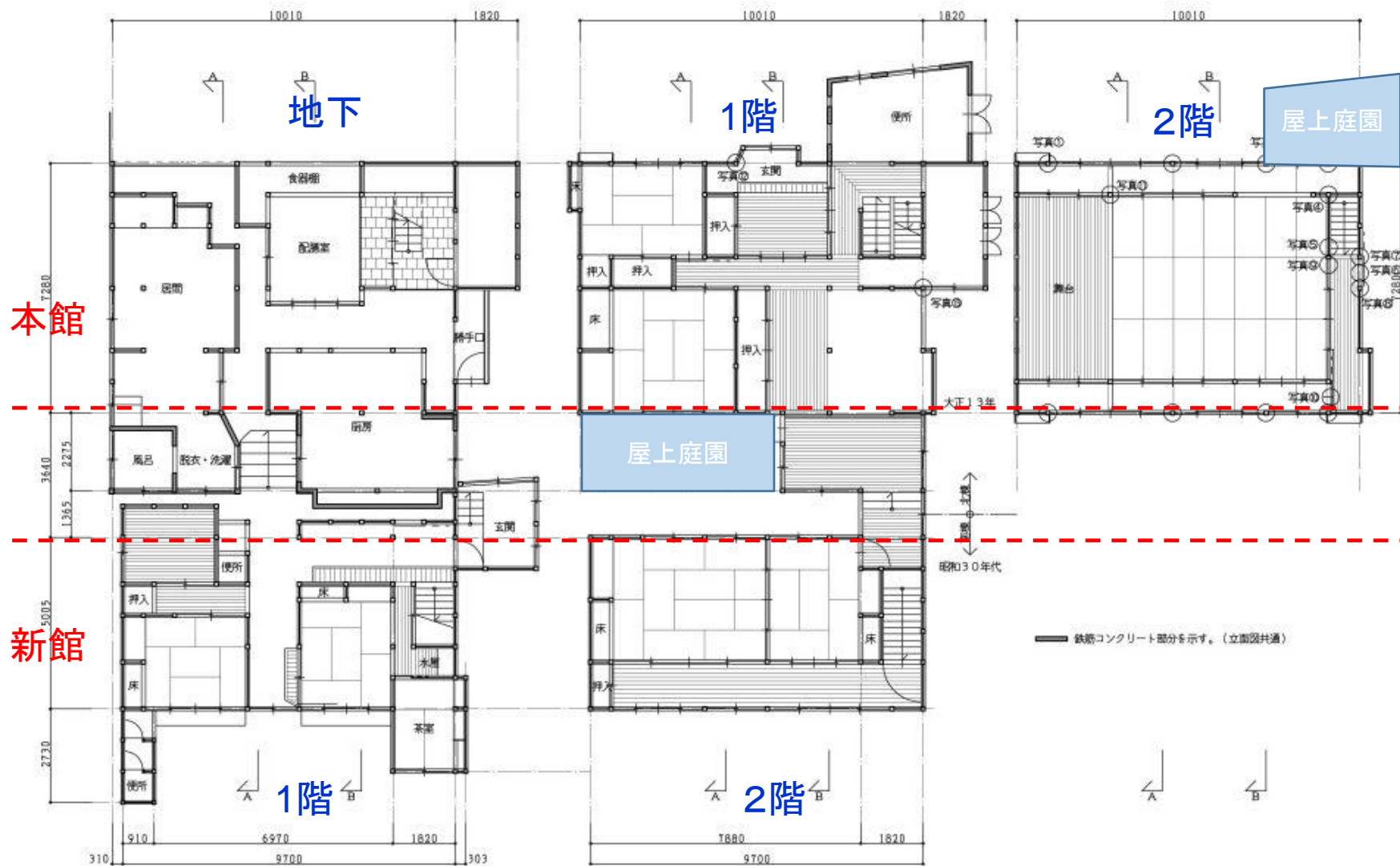


本館：木造瓦葺き・一部RC、地上2階・地下1階  
新館：木造瓦葺き、地上2階

# 断面図



# 改修前平面図



区画数: 約20  
 延べ床面積: 約300m<sup>2</sup>



華やかなりし頃



足助の人たちの  
「思い出」の場



それから幾星霜(プロジェクト開始時の状態)



# 野良猫の棲み処かお化け屋敷



# 寿々家再生プロジェクトの概要

## 理念(どのような姿を実現したいのか)

- 足助の町並みが「住み継」がれている:町並みの魅力を楽しむ暮らしの継続と発展

## 目的・目標(何を指標とするのか)

- 町並みでの新たな暮らしづくりの提案
- 何らかの化学反応、新陳代謝の促進

## 手段(何をするのか)

- 地域内外の人が集う「場」づくりと、その時々に合わせて機能の展開

## 方法(どのように行うのか)

- 寿々家および周辺の再生と活用

## 理由(なぜ行うのか)

- 義理と人情、ご縁+?



## 【まずは理由】

再生プロジェクトに至る経緯／なぜ寿々家だったのか？

# 義理と人情

足助の町並みの保存と活用を仕掛け  
足助の町の方々と重要伝統的建造物群保存地区選定へ

- ・ 「空き家」の問題
- ・ 動かない不動産
- ・ 制度の運用と住民の生活
- ・ 公共と住民の間
- ・ 暮らしの継続

## ご縁

- 景観整備の実証実験
- 地域内外の交流の場
- 修繕による建物維持
- 新しい使い方を提案
- 足助の物語りを紡ぐ

見えていた町並み保存の課題

+ ?

足助まちづくり宣言の具体化

## 【方法と手段】

# これまでの寿々家再生プロジェクト

- 建物の再生（修繕）と、地蔵小路を含む周辺環境整備
- まちづくりに関心のある住民及び外部の人たちとの交流の場づくり
- 町の外からの来訪者を得られるような催事の展開

まずは、

- ヒトが寄れるようにする。  
モノを活かす。  
コトが起こせるようにする。

化学反応を起こす場所／「まちの縁側」をつくる！



## 課題

構造は頼りない。  
給排水設備もない。  
作業のあてになる人もいない。  
資金もない。  
・・・数え上げればきりがない。

それでも、

## 挑戦

ここにあるモノの存在意義を  
いかに面白くするか、  
楽しんでもらえるか。

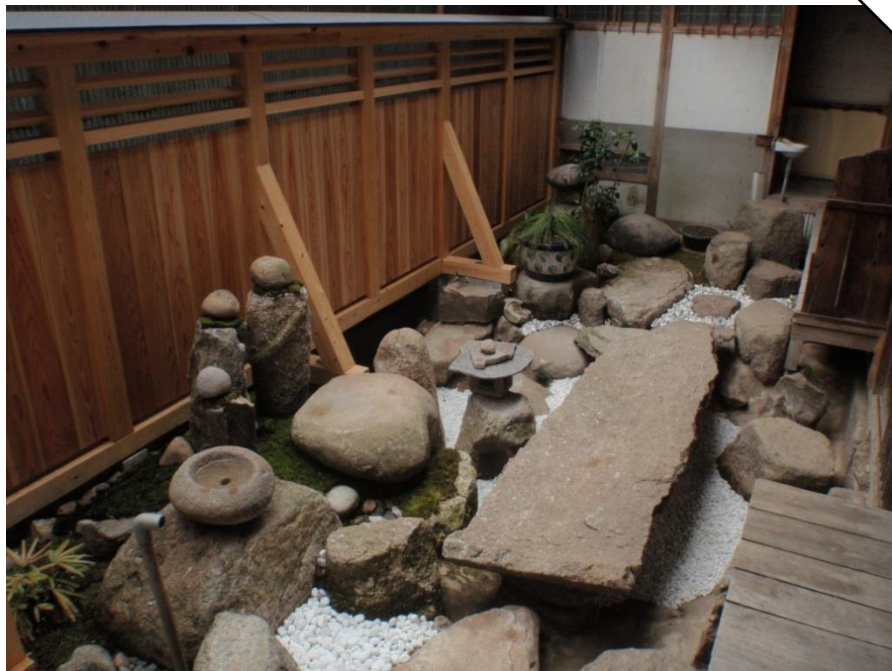
ここから新たな価値を生み出す。  
カセギを作る。



# 各種整備活動



# 整備実績例(寿々家南庭)

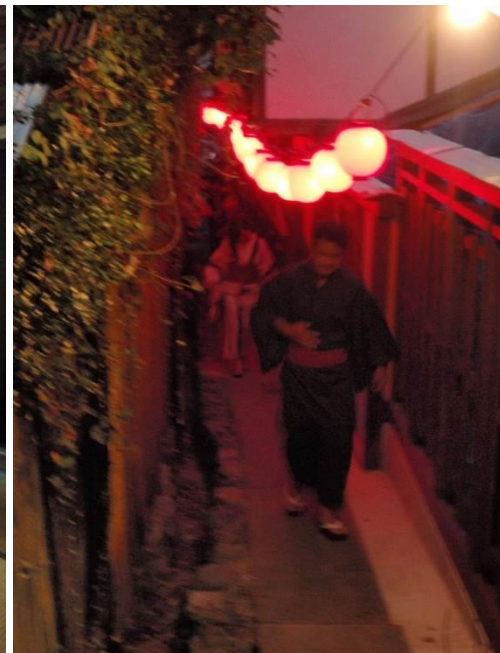




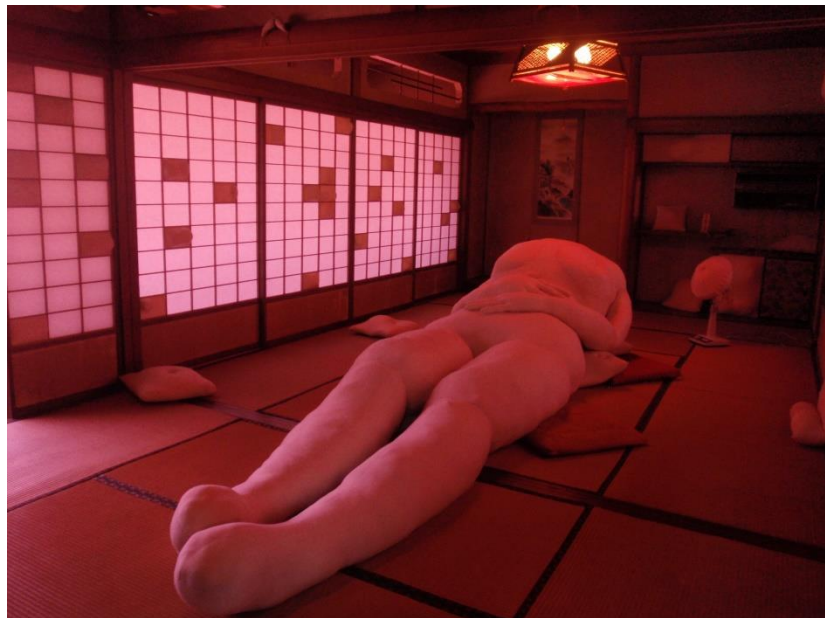
催事 /  
交流 /  
利用



# 事業展開／実験



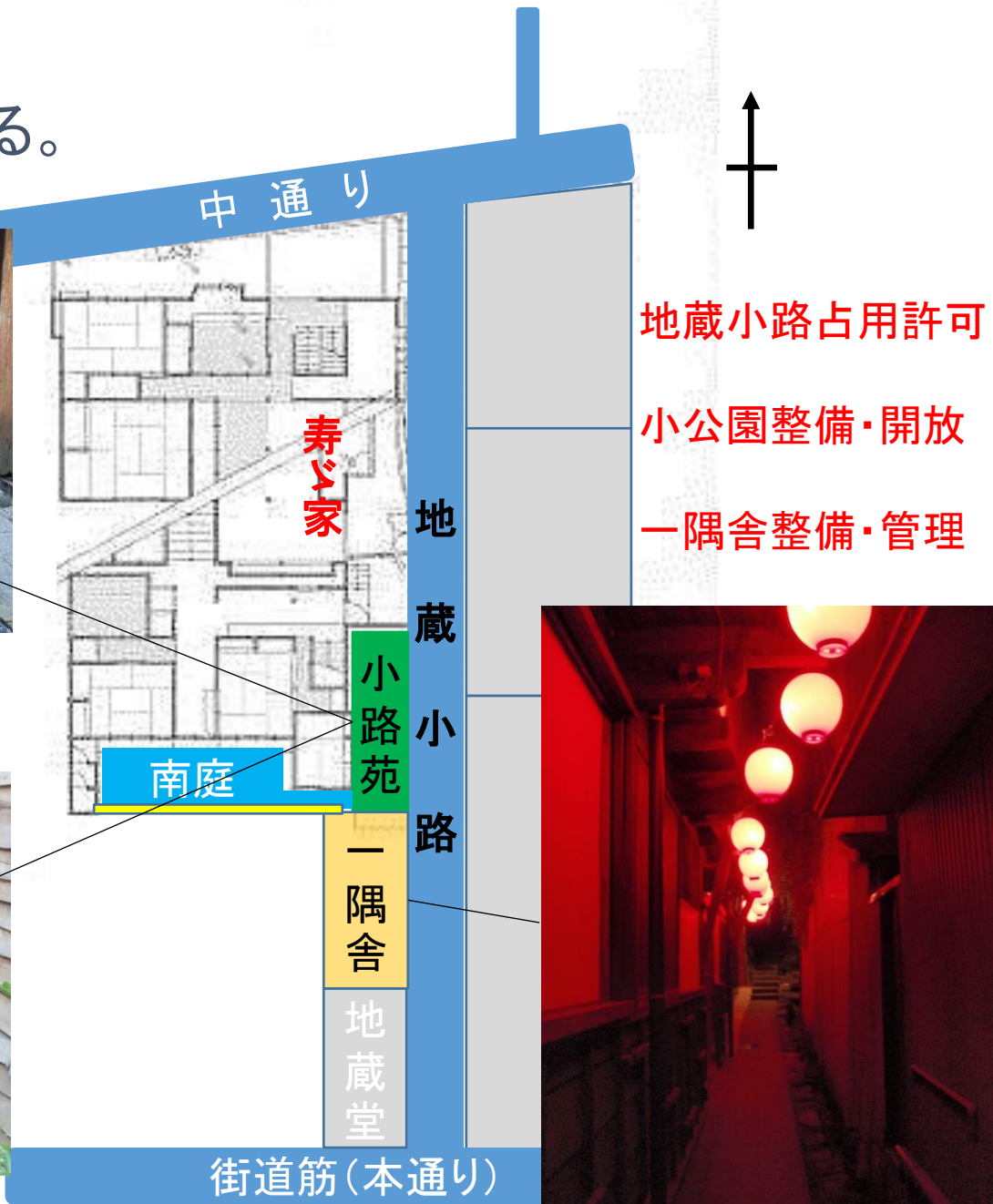
# 足助ゴエンナーレ (H26~H30)





# 成果・影響・波及

点から線へ活動はつながる。



# 有形無形の効果



アートなんてあんなものか  
おまんにだったら抱かれてもいい

僕は夢を見ている。  
子どもたちが大きくなった時、早く  
引退してくれと言われたい

# 「足助をどり」

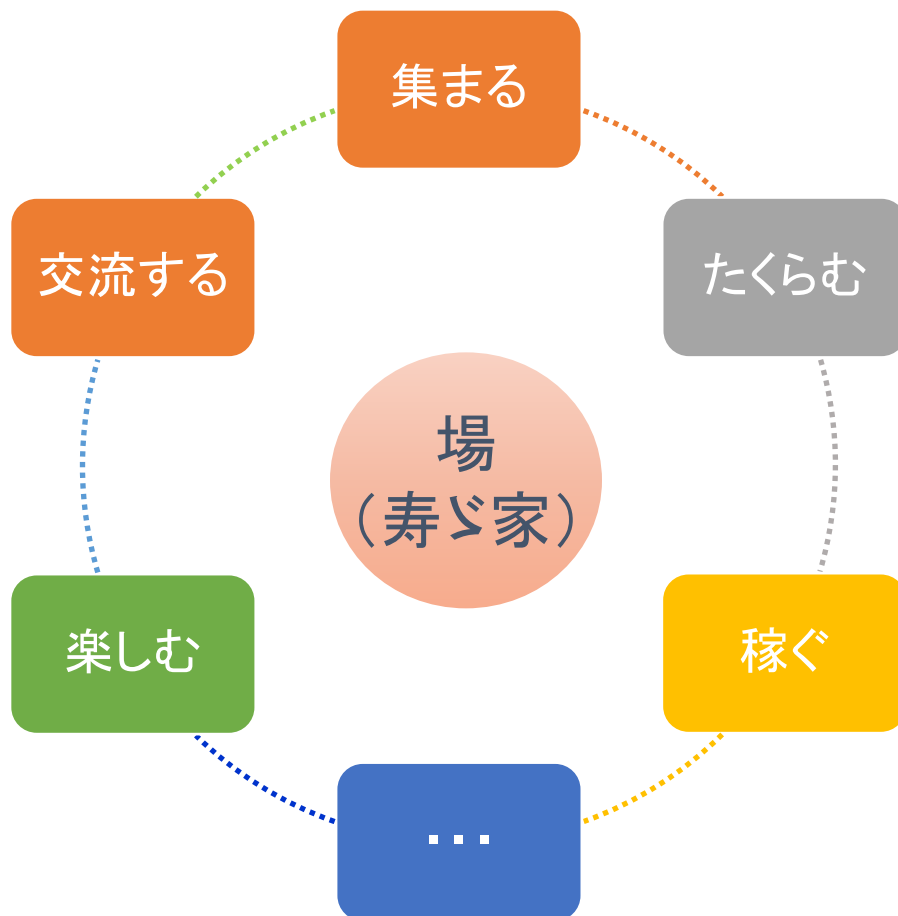


# 寿之家改修工事前



## 【目的・目標】

「場づくり」＝化学反応の器づくり



新たな【手段・方法】

# 現在の寿々家再生プロジェクト

---

## 環境変化

建物所有

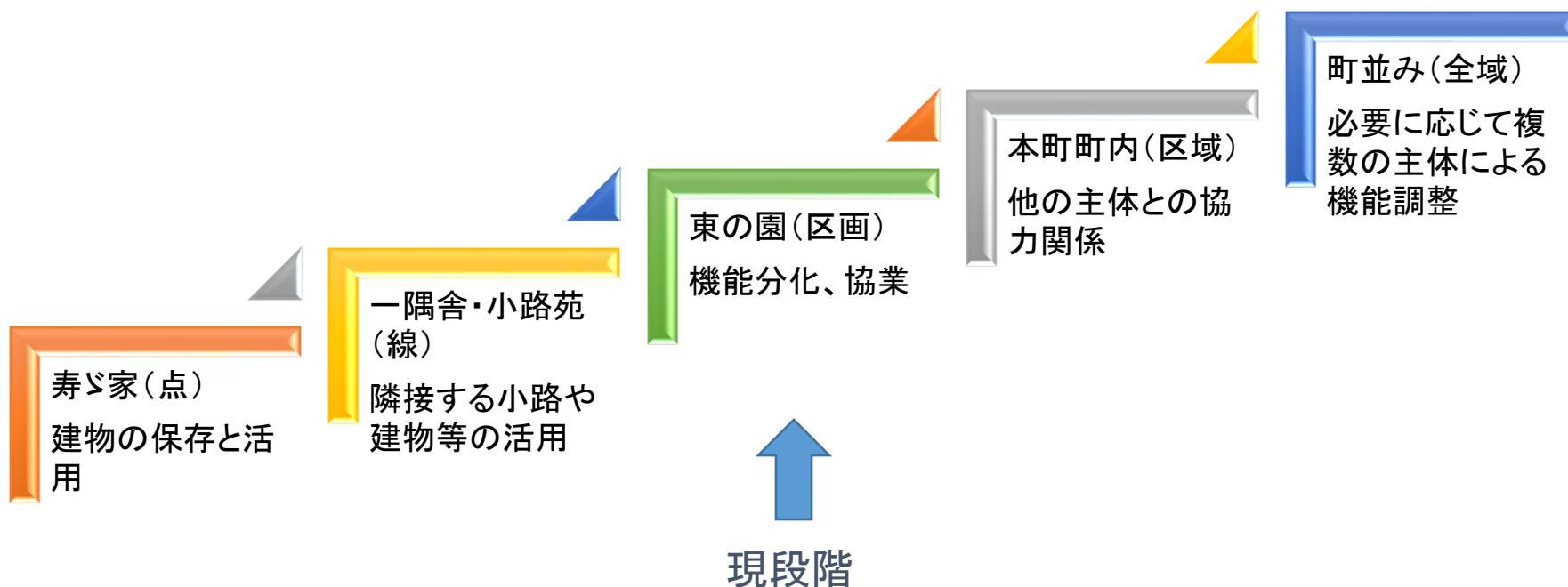
活動の展開

## 本館改修工事

第1期工事

第2期工事

# 活動の展開(点→線→面)



# 「まちの機能」⇒面への展開を見据えて







# 計画段階 の内部 イメージ

注) 画像はwebで  
拾ったもので、  
あくまでも単なるイ  
メージです。



「**まちの縁側**」から良質な遊び人(子ども含む)が  
足助の町並みをより楽しむための場「**遊郭**」へ進化

寿ゞ家 ⇒ 大人の遊び場「遊郭」化

【寿ゞ家主人としてのささやかな願望】

ここで遊ぶ人たちの夢に添寝(触媒)

アイデアと愛は溢れるほどあるけれど、  
資金はない！力もない！

それでも、一つずつ進化

第1期工事：水回りとトイレの整備・構造補強

第2期工事：本館屋根の葺き替えなど

その後の整備と活用も

面白いこと、まずはやってみよう！

巷間にて、交歓！・交感！！

とは言え、最低限お客様が、安心安全に  
過ごしていただけるようにしなければ。。。

## 脆弱な構造



# 第1期工事

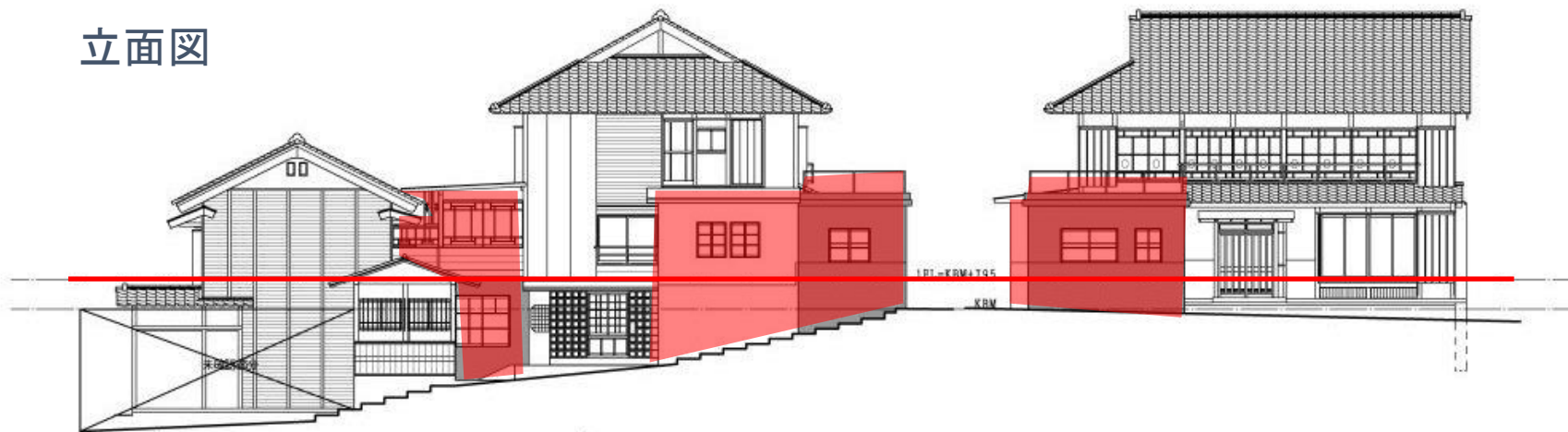
- 工期：平成31年4月～令和2年2月
- 内容：本館の上下水道とトイレの整備・構造補強
- 費用：約2,100万円
  - うち補助金額：約1,200万円
  - クラウドファンディング調達：約300万円

- トイレの整備
- 上下水道の整備
- 建物がこれ以上傷まないようにする工夫

- 子どもや高齢者も、安心して、長時間、寿々家の上質な空間と催事などを、ゆっくり楽しめるようにする。
- 次世代に町並みの魅力を伝えられる場として、多様な活用の方法を試すことができる素地。

**必要な機能を得るためには、  
これまでの修繕とは異なる飛躍が必要！**

# 立面図



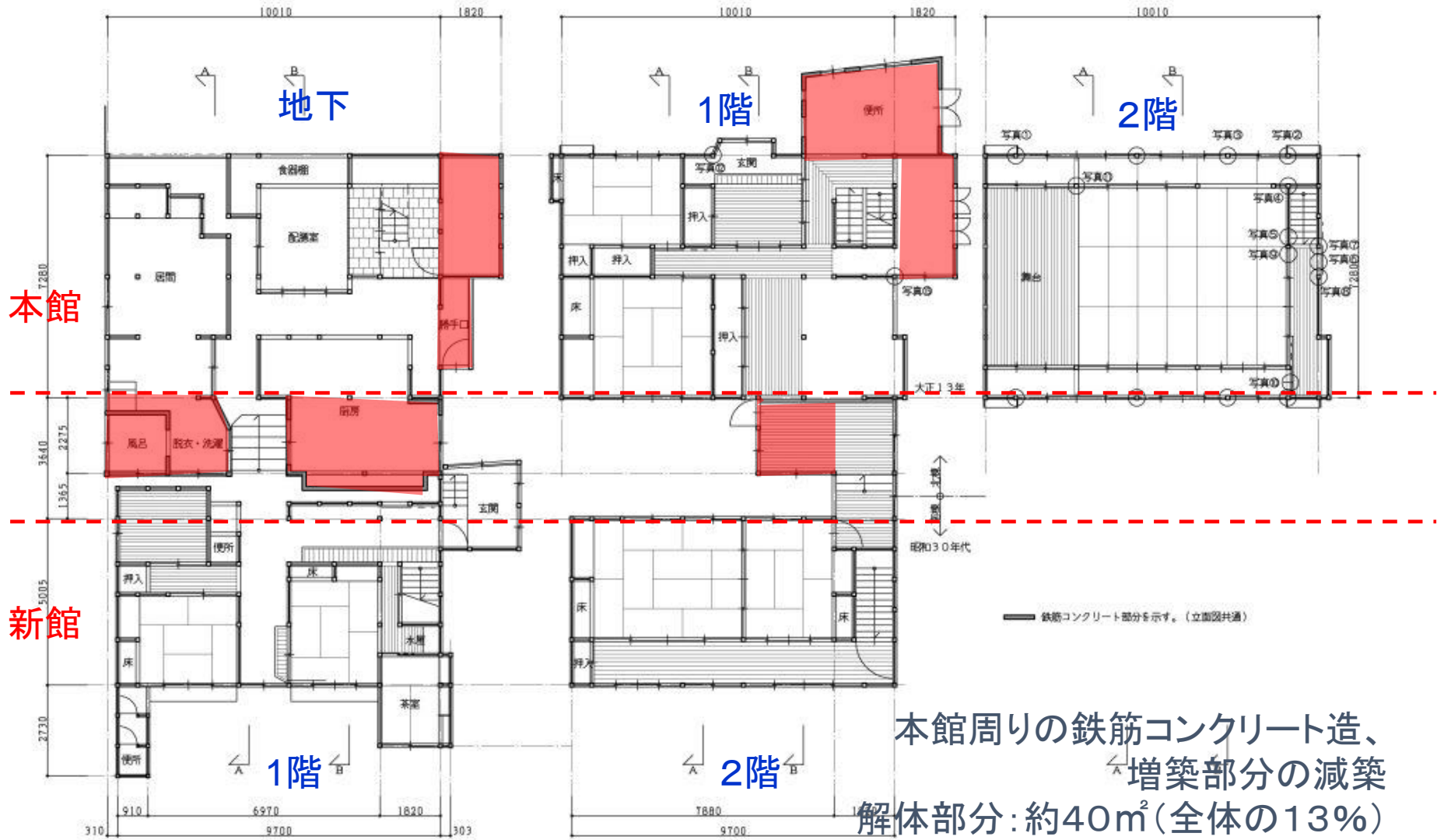
給排水の整備 =  
建物の機能配置・構造に直結

脆弱な構造部分を撤去しないことには、  
構造の補修も水回りの整備もできない。

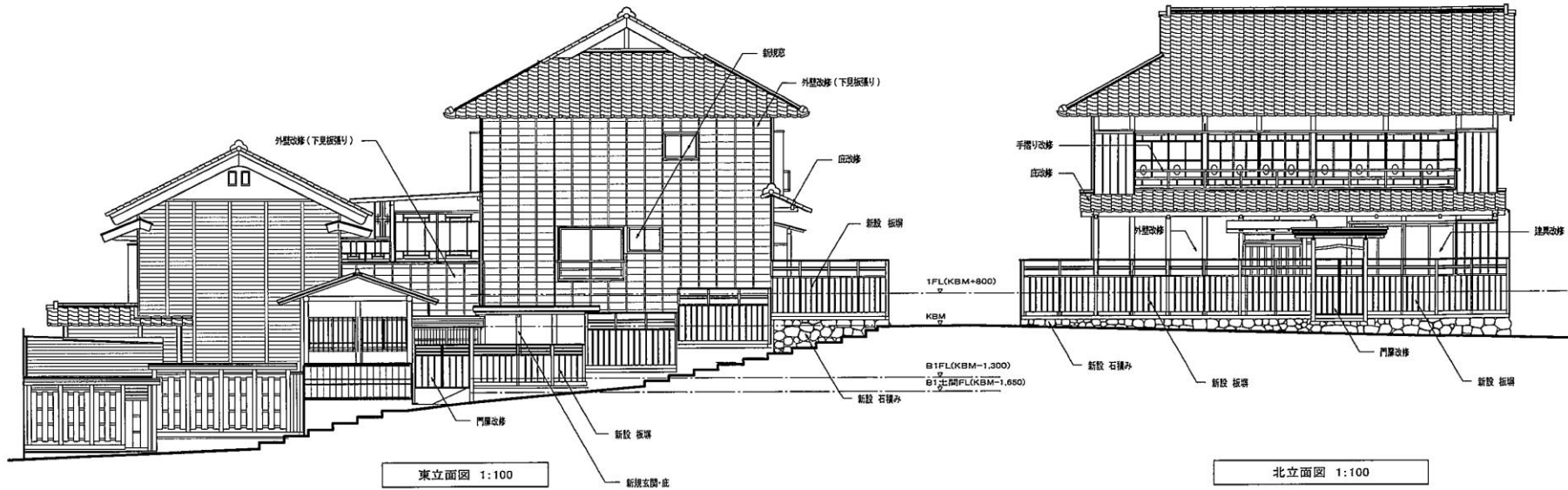
# 断面図



# 平面図



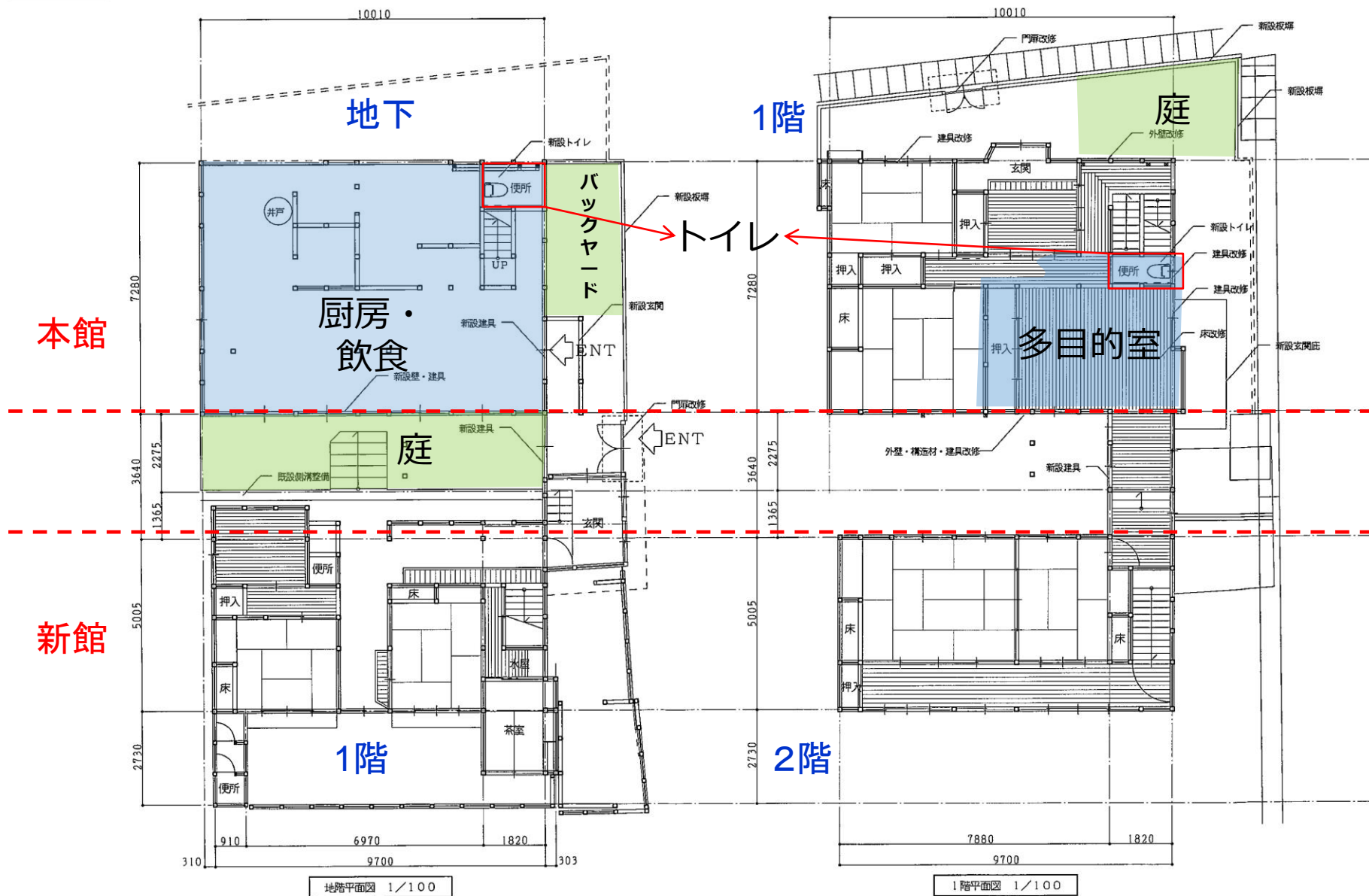
外観は、重伝建の町並みとして整える。





# 水回りの整備と、新たな場づくり

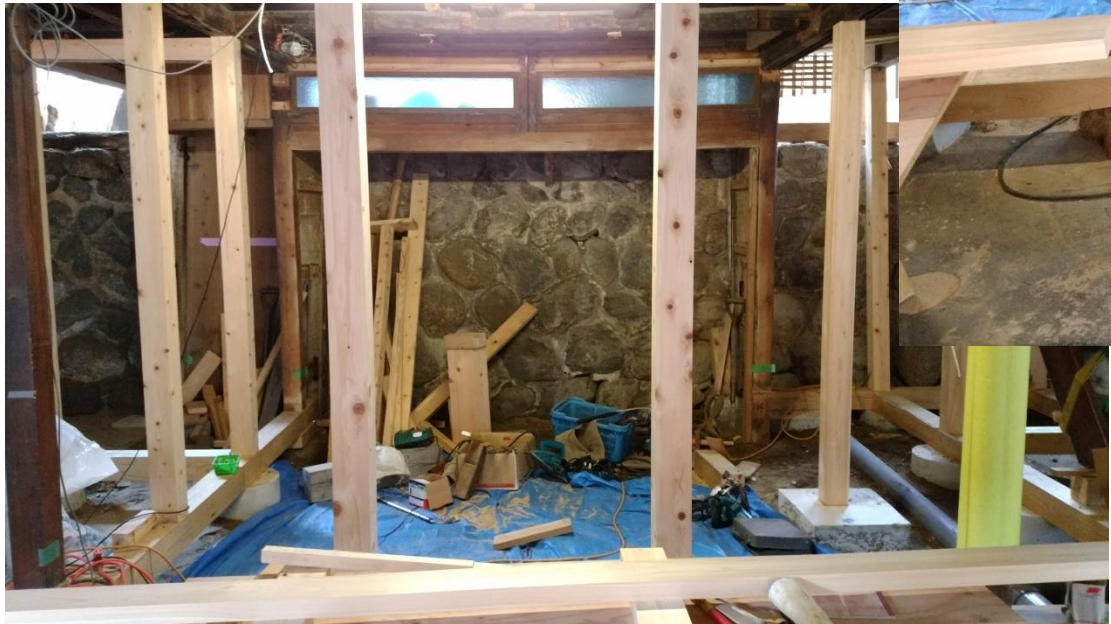
計画平面図











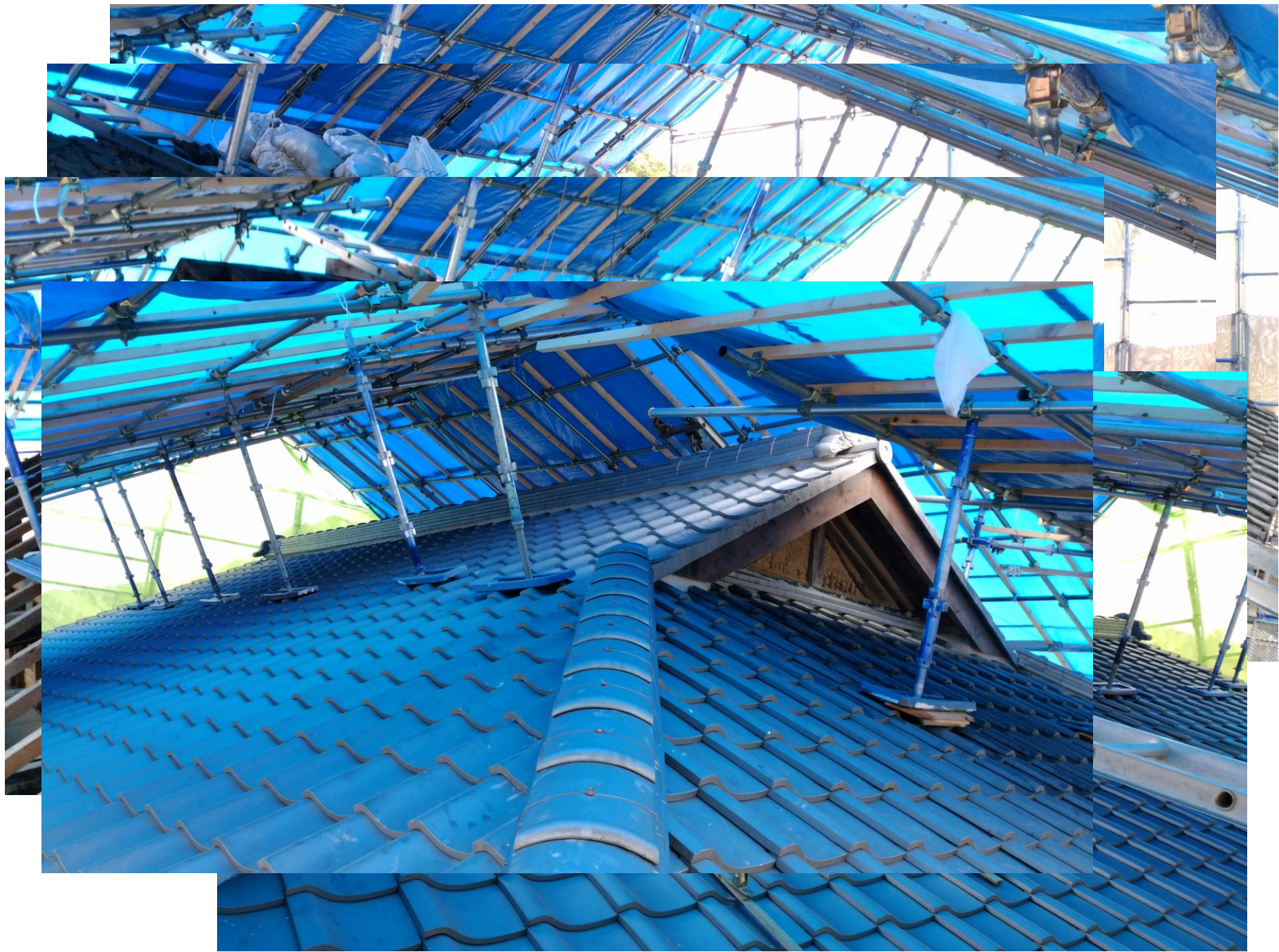




## 第2期工事

- 工期: 令和2年4月～令和2年12月
- 内容: 本館屋根の葺き替え
- 費用: 約1,200万円  
うち補助金額: 約800万円

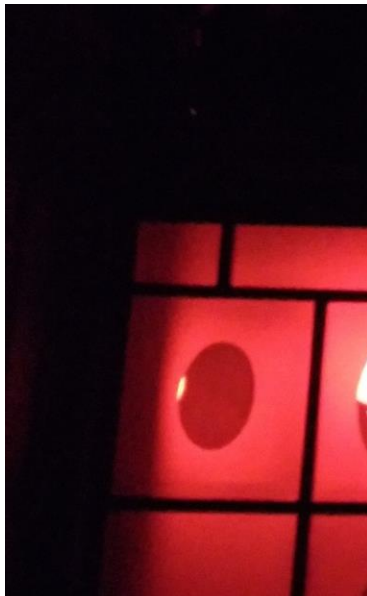














# 今後の工事予定

- 塀、外構工事：重伝建の制度に沿って町並み整備
- 内装工事：本館地階に飲食場所・厨房整備  
新館内部改修
- 新館修理：構造、屋根補修、上下水道、電気等整備
- その他：隣接地や地蔵小路の整備など

おそらく終わりのない整備・・・

# 課題と挑戦

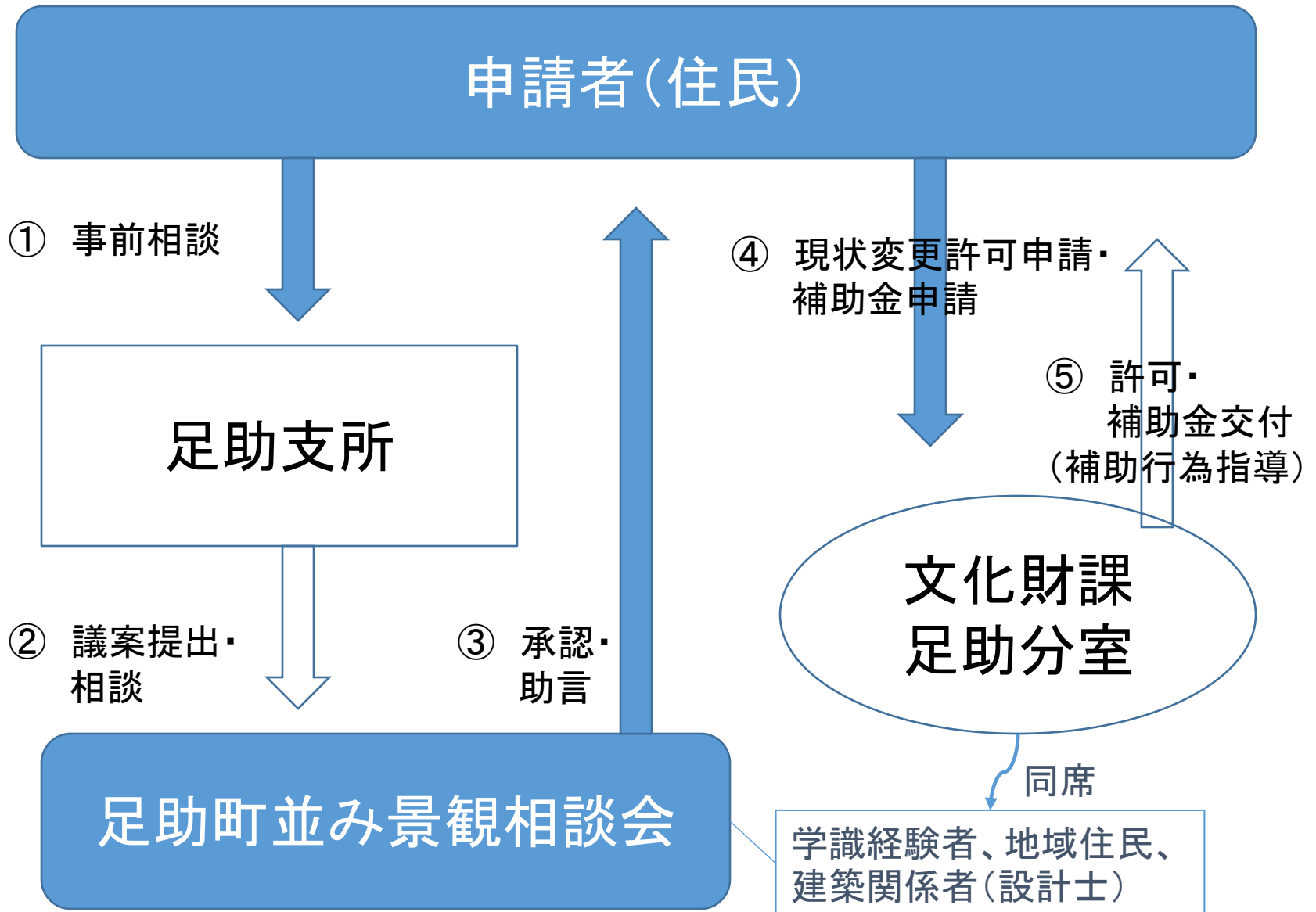
やればやるだけ出てくる課題(笑)

- 画像: 提出書類の山(補助申請)
- 文化財の保存と活用のバランス
- 寿々家のデザイン挑戦。これからの修理・修景を考える
- 文化財部局との調整、施主との調整、





# 足助の町並み：重伝建の景観保全の仕組み

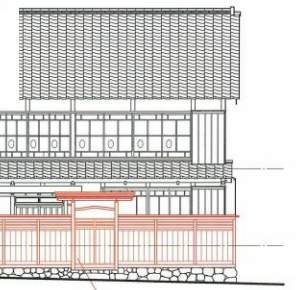
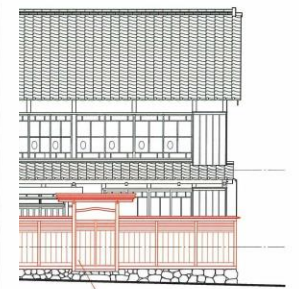
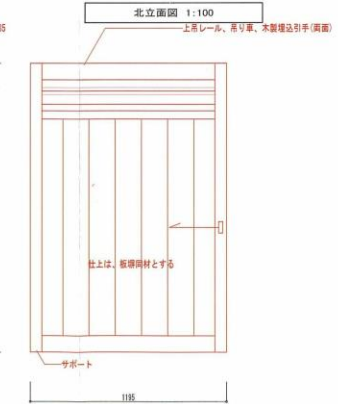
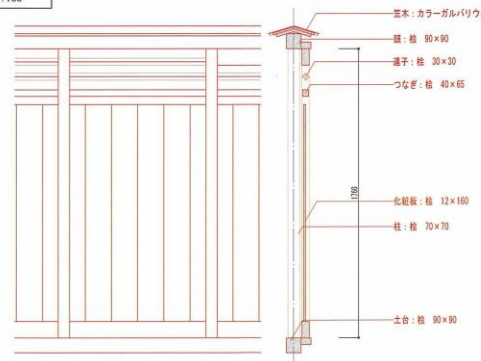
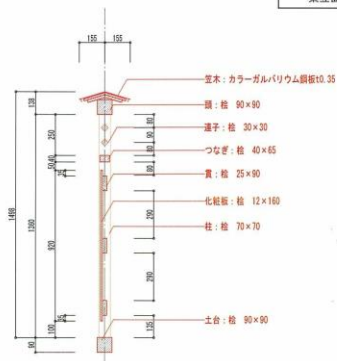
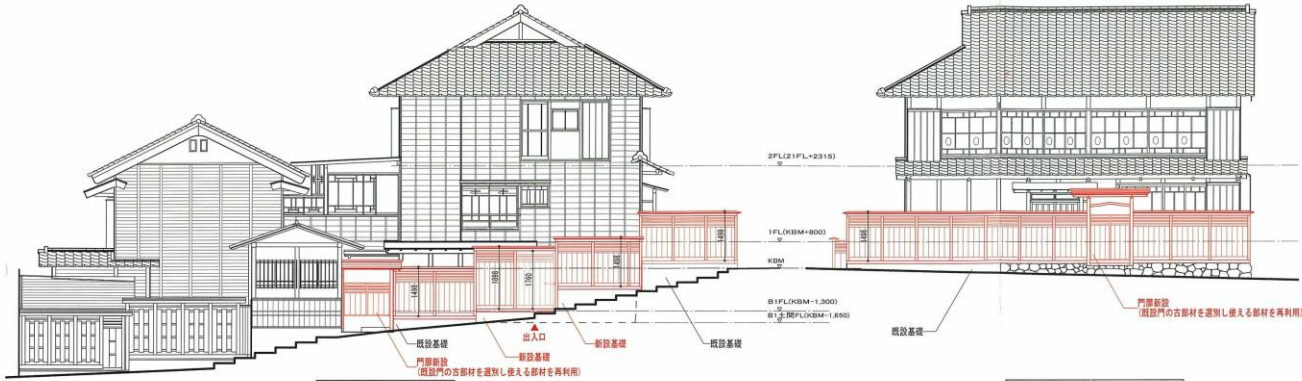


・仕様デザイン





計画立面図



# ・事業デザイン(手法等)

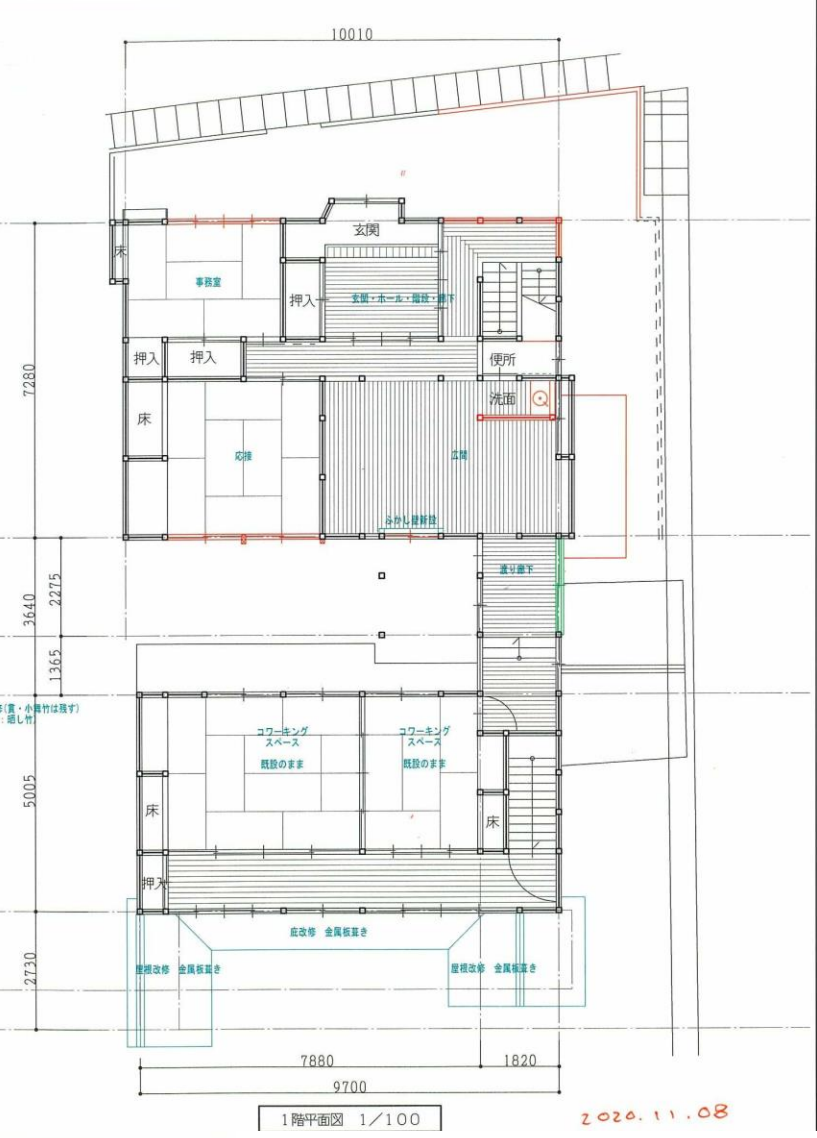
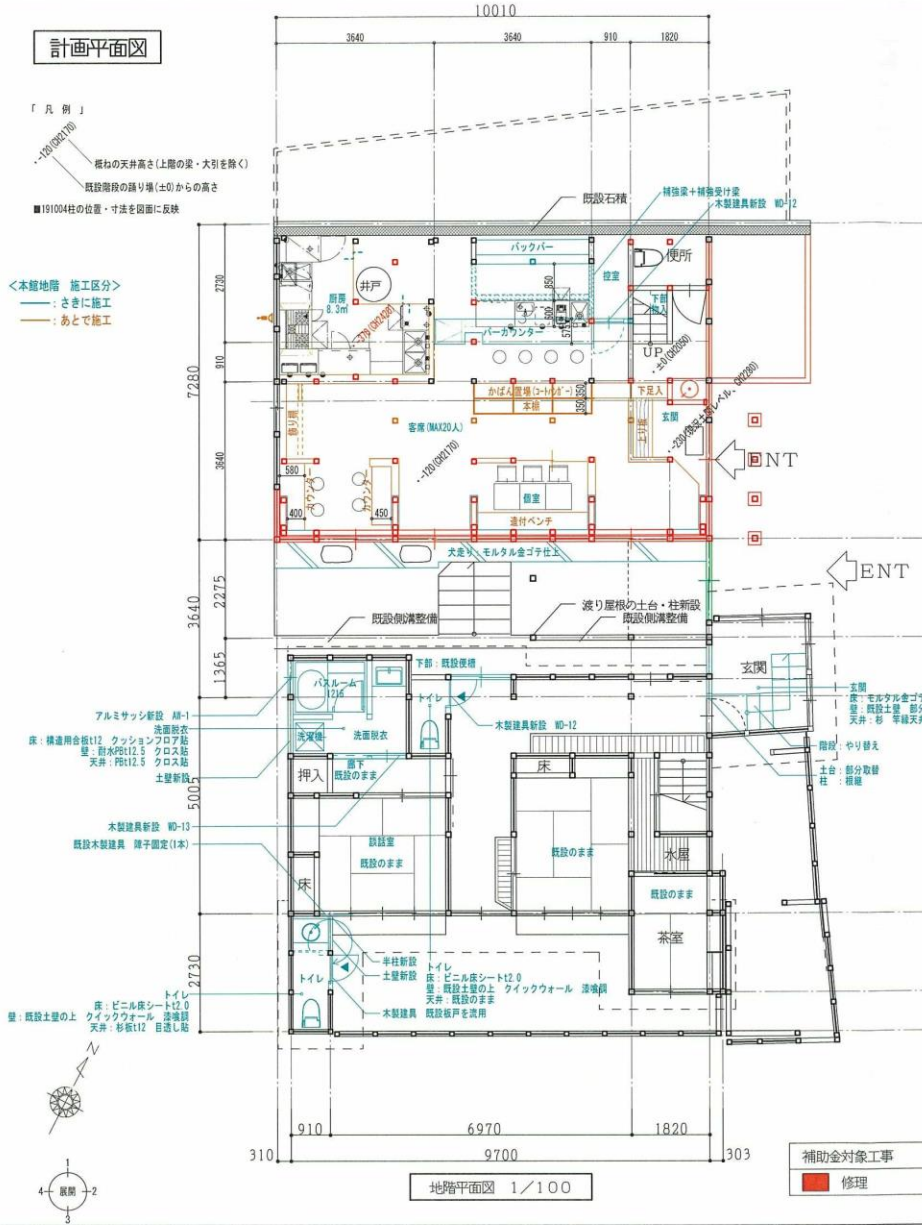
計画平面図

「凡例」

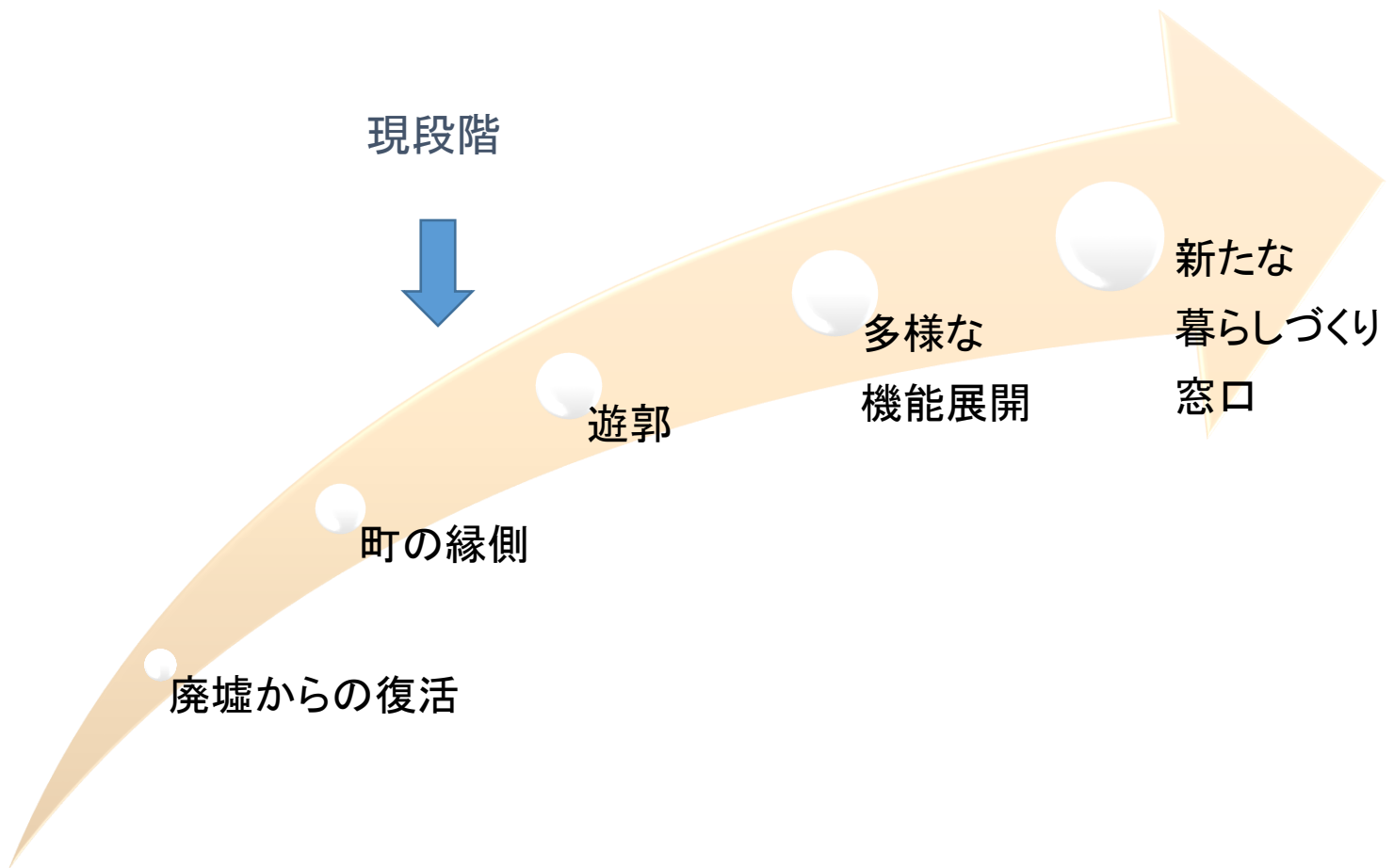
- 120(000710) 概ね天井高さ(上階の梁・大引を除く)
- 既設階段の踊り場(土0)からの高さ
- 191004柱の位置・寸法を図面に反映

<本館地階 施工区分>

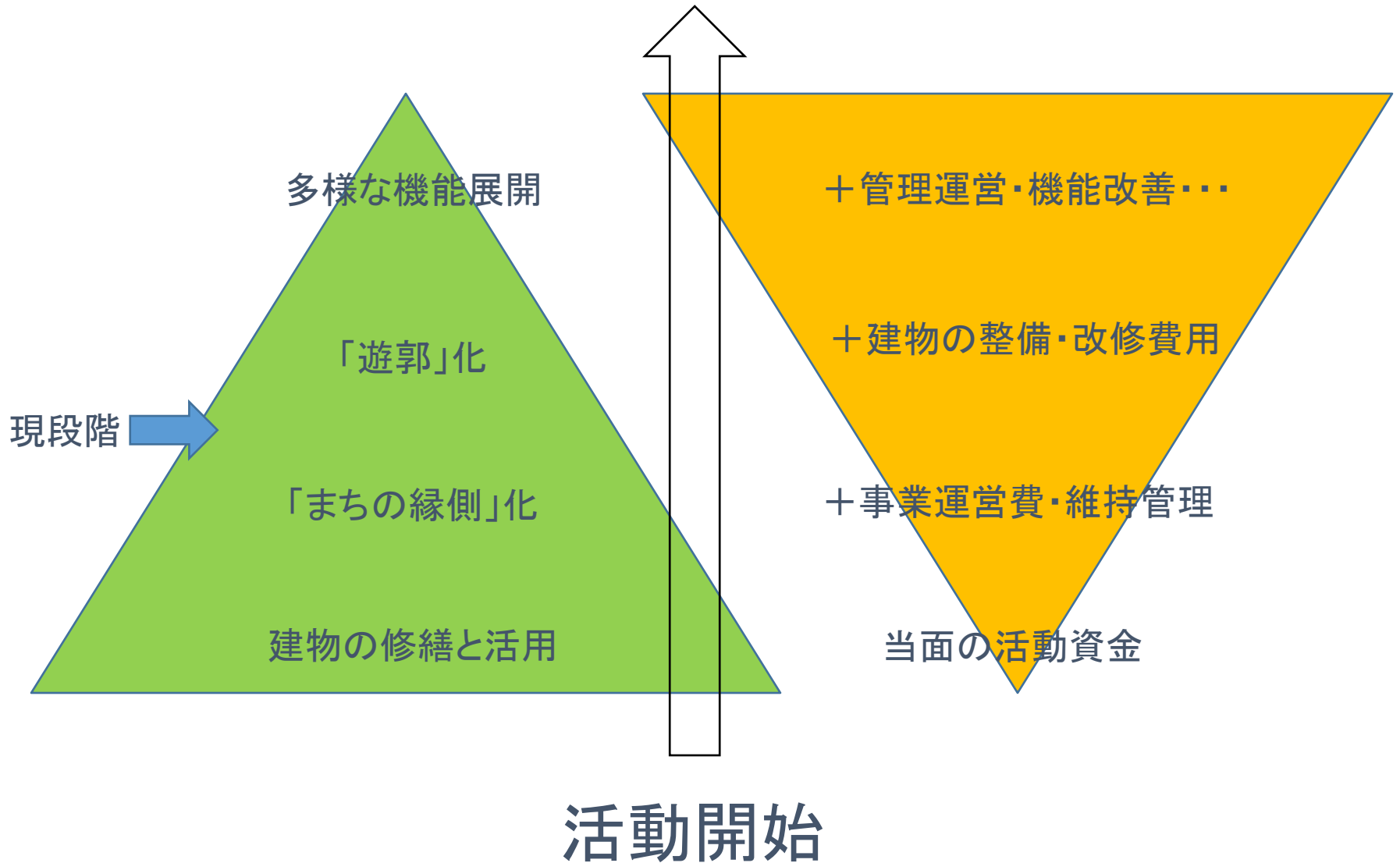
- さきに施工
- あとで施工



# 町並みにおける寿々家の機能



# 中・長期目標





# 事業を回していくためには



活動の継続：課題はどこも同じ

## 人・資金・物(対象、場所)

世の中を面白くするのは誰か？

人を巻き込む？ 場に巻き込まれる？

場の獲得：人の信頼を得ることから

結局：そのひと・あのひと・この人、次第

**動き続ければ**

**自ずとつながる広がる変化する。**  
**(一歩踏み出すには能天気・楽観的に)**

どうしても辛くなったら止めることも想定しておく。  
ただし、他人に迷惑かけないようにけじめはつける。

# 事業運営と資金調達・・・

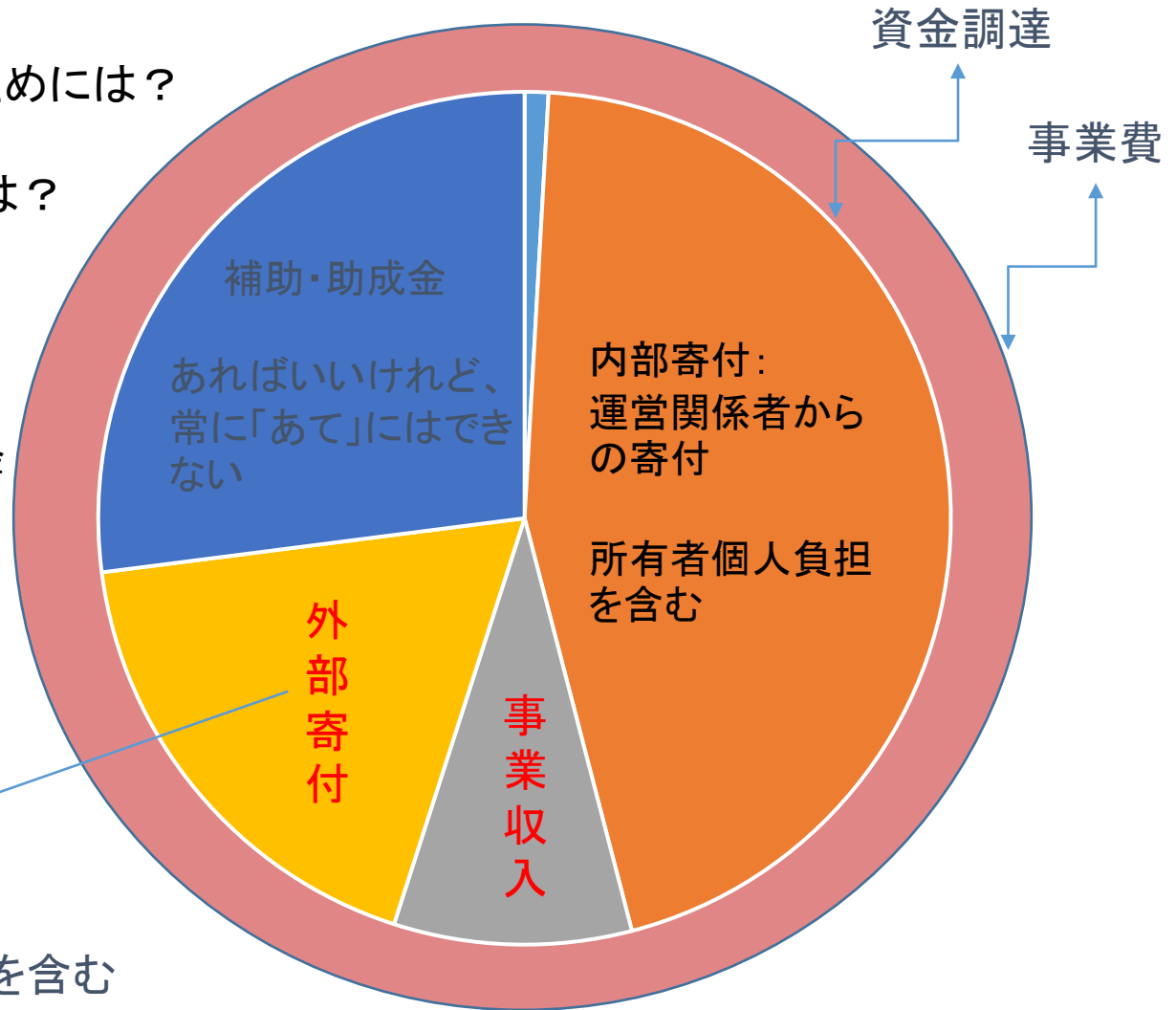
・事業費と資金の差を埋めるためには？

・安定的な資金調達のためには？

- 会費
  - 内部寄付
  - 事業収入
  - 外部寄付
  - 補助・助成金
- 自己資金
- この拡充が課題

関係者以外の寄付  
(単発・継続)

クラウドファンディング等を含む



## 自己負担を前提に様々な制度を利用

- 豊田市「わくわく事業」: まちづくり助成金
- 豊田市「デカスプロジェクト」: 公募型文化事業
- 国: 文化庁委託制度: 受託事業としての活動
- **クラウドファンディング**: 自主事業
- **国・市: 重伝建制度補助金**: 文化財制度

・・・など

「補助」は必須ではないけれど、  
巨額な改修費用は個人負担のみでは難しい。

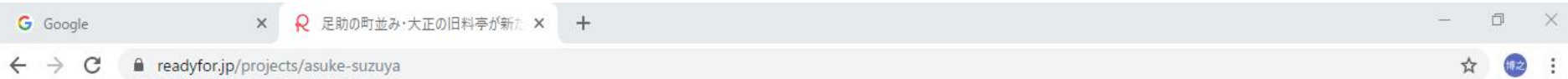
⇒ 資金調達の工夫・組み合わせは必要

= 事業の形態と「お金の流れ」の最適化

→ クラウドファンディングは万能？

→ 安定的な収入：何を主軸にするのか？

# 解体工事の資金調達のため、 「クラウドファンディング」に挑戦・成功



プロジェクトを探す

クラウドファンディングとは はじめる さがす

ログイン・登録

クラウドファンディングトップ > 地域 > 地域文化 > 足助の町並み・大正の旧料亭が新たな暮らしづくりの場として蘇る

## 足助の町並み・大正の旧料亭が新たな暮らしづくりの場として蘇る

愛知県 地域 地域文化 まちづくり 伝統文化 舞台・パフォーマンス 歴史 古民家 日本酒

成立!!



天野 博之 (地域人文化学研究所 代表理事)

支援総額	5,475,000円
 目標金額	5,000,000円
支援者数	203人
残り日数	終了しました

購入型 All or Nothing

プロジェクトが成立しました！  
このプロジェクトは  
2018年10月31日(水)23:00 に成立しました。

いいね! 1372 シェア ツイートする R1ブックマーク

プロジェクトの相談をする

この資金調達の不調＝寿々家再生プロジェクトの不支持＝改修不要

クラウドファンディングへの挑戦自体、  
実は、寿々家のためだけでなく、  
次の足助の町並み保存活用への布石。

返礼品として、足助屋敷の職人たちとのコラボ新製品も



「足助」を一緒に売る。  
新製品の企画



- ・クラウドファンディング、寄付金、事業収入  
成功するかどうか、いつまで続くか不明
- ・助成金、補助金、受託事業・・・  
用途の限定、制度がいつまでであるか・採択されるか不安定

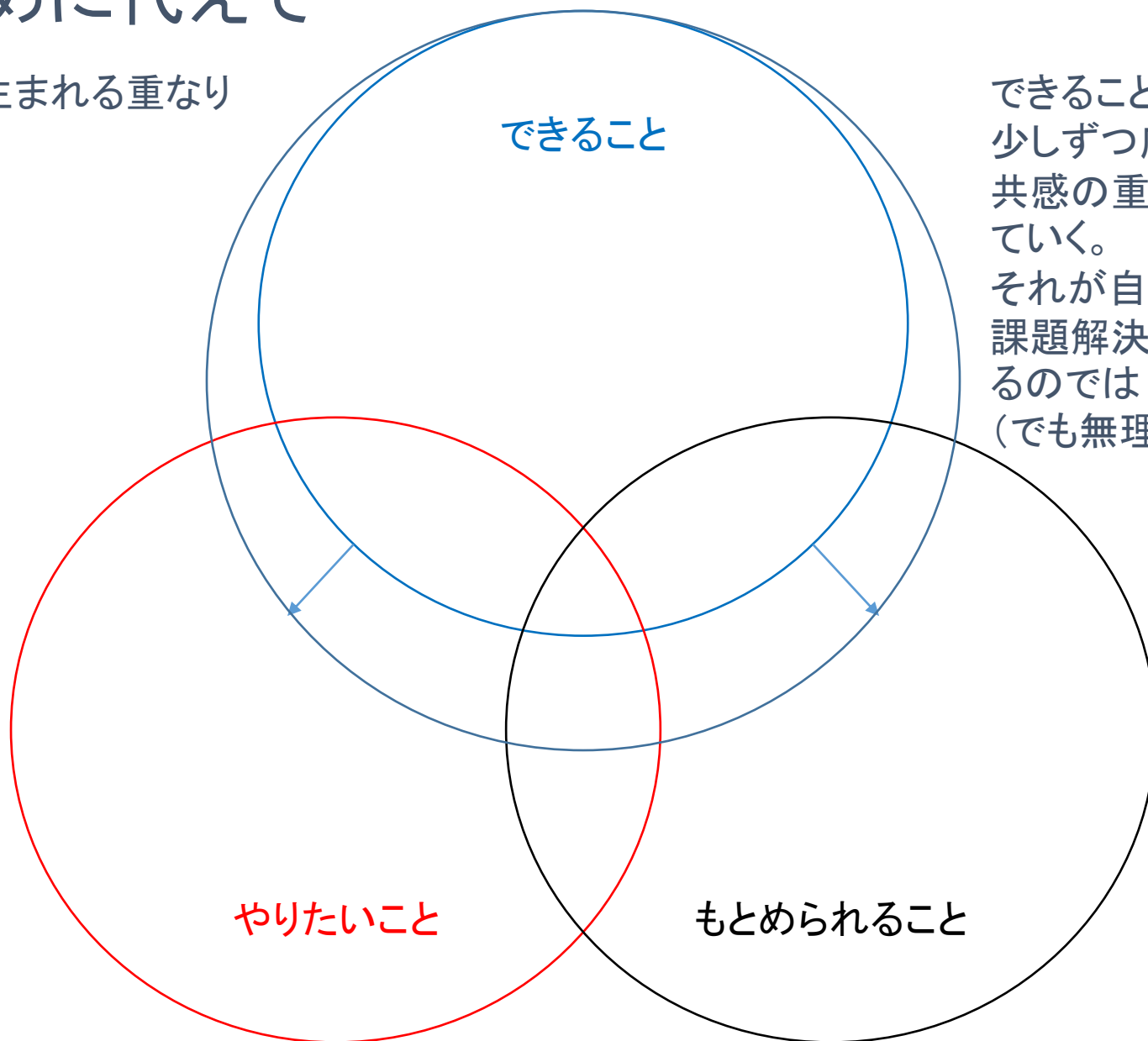
応援（気持ち）と支援（支払い）の間には  
大きな壁（溝）がある。

その壁（溝）を越えてもらうには、  
事業・活動や人・団体に対する  
共感・親密感・お徳感（満足感）の醸成が不可欠



# まとめに代えて

共感が生まれる重なり



できること

やりたいこと

まとめられること

できることを  
少しずつ広げて、  
共感の重なりを多くし  
ていく。  
それが自らと周囲の  
課題解決にもつな  
がるのでは？  
(でも無理はしない)

そして、  
寿々家再生プロジェクトの挑戦は  
まだまだ続きます！

- ・資金調達の安定化への挑戦  
クラウドファンディング再度実施予定（近々）
- ・新たな（未知の）事業運営への挑戦  
地蔵小路エリアからの持続的活動展開
- ・Withコロナ時代への挑戦、その他  
その時々への柔軟な対応

# 寿之家再生プロジェクトの挑戦！

ご参加・ご協力のほど、  
是非よろしくお願いいたします。



足助にお越しの際には、気楽にお立ち寄りください。